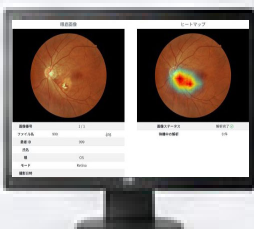
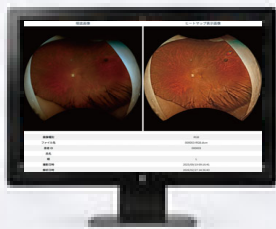




過去の研究はおおむね5年後に上市

筑波大発ベンチャーと連携

遠隔読影サービス  医師による 遠隔読影+AI解析 眼科画像AI診断支援 サービス	DeepEyeVision for RetinaStation  眼底画像診断支援AI 医療機器プログラム	DeepEyeVision for California  網膜疾患診断支援AI 医療機器プログラム	AI-CO  OCT画像解析AI 医療機器プログラム
---	---	--	--

5年後を目指し、より広汎かつ時系列なデータで最新の基盤モデルを併用して正確な予後予測に向けた技術開発中

眼底画像オミクスによる全身疾患リスク層別化と 予後関連網膜バイオマーカーの創出

「私の研究（関心事）はこんな感じです。」

“This is what I'm working on!”

所属：筑波大学 医学医療系

名前：高橋 秀徳

連絡先：takahah@md.tsukuba.ac.jp

眼底画像は、血管・神経・代謝・炎症の情報を非侵襲的に捉えうる、全身状態の「窓」である。私はこれまで、大学発の眼科画像AI研究を、医療機器プログラム・遠隔読影サービスとして臨床現場に届ける研究開発を進めてきた。現在はその経験を基盤に、眼底画像から全身疾患リスクや将来予後に関連する所見を抽出し、予防医療・疾患管理に資する網膜バイオマーカーを創出することを目指している。

「こんなこと知りたい、話し合いたい！」

“What I’d like to explore and discuss together!”

1. 眼底画像と、循環器・腎臓・代謝・神経変性・フレイルなどの全身アウトカムをどう接続するか
2. AIが抽出した画像特徴を、臨床的・生物学的に意味のある網膜バイオマーカーとしてどう解釈するか
3. 健診、前向きコホート、電子カルテ、検査値、予後情報を組み合わせた研究設計をどう作るか
4. 施設差・機器差・撮影条件差を越えて使える、頑健な画像オミクス基盤をどう構築するか
5. 最終的に、研究成果を医療機器・臨床サービスとして社会実装するには、どの評価項目が必要か

「このことなら私に聞いて」
“This is my area — feel free to ask!”

1. 眼底写真・OCT・超広角眼底画像を用いた眼科AI研究
2. 医療画像AIの研究計画、データセット設計、性能評価、論文化
3. 医療機器プログラムの薬事対応、認証取得、臨床導入
4. 大学発技術のベンチャー化、共同研究、製品化戦略
5. 眼科画像AIと遠隔読影を組み合わせた実装モデル
6. 研究成果を5年後の製品・サービスに接続するロードマップ設計